

体への負担が少ない手術への取り組み!



体への負担が少ない手術 (低侵襲手術) (腹腔鏡手術)

痛みが少ない手術である低侵襲手術(ていしんしゅじゆじゆつ)は、体への負担が小さい手術方法です。体に開けた小さな穴から内視鏡カメラを入れて、体の様子テレビに映しながら行う手術、すなわち腹腔鏡(ふくくつきょう)手術が低侵襲手術の代表です。腹腔鏡手術はその傷が小さいことから、従来の大きな傷の開腹手術と比べて、手術後、早く食事を開始したり、歩行をしたりできます。患者様にとっては非常に良い手術ですがこの手術は以下のような理由で、執刀医にとって従来の手術に比べると難しい手術です。立体的な視界が得られない、触覚が無く、使用する手術器具の動きに制限がある、などの点です。従来の手術とは全く別の手術と言っても過言ではありません。実際に

手術を安全に行うために、充実したスタッフ

日本内視鏡外科学会技術認定医

外科部長 新居延 高宏 医師

日本内視鏡外科学会技術認定医

消化器センター部長 市原 隆夫 医師

泌尿器科腹腔鏡技術認定医

泌尿器科部長 瀧内 秀和 医師

当院では、外科部長・新居延高宏医師、消化器センター部長・市原隆夫医師、泌尿器科部長・瀧内秀和医師が認定を受けております。さらに、当院では腹腔鏡手術の安全性をさらに高めるために、腹腔鏡手術に係わる医師、看護師、事務職員により構成される「低侵襲手術支援チーム」を充足させました。診療科の領域を超えて、中央病院に入院される患者様のために、腹腔鏡手術を支援すべく活動を行っております。

また、当院の低侵襲手術は、必ず技術認定医が立会いの下で行われますので、安心して手術を受けていただけます。では、具体的に当院で行われる低侵襲手術について、御説明させていただきます。

外科領域

当院の外科は、消化器外科、呼吸器外科、乳腺甲状腺外科と専門分野が分かれております。消化器外科では、胆石などの良性疾患はもちろん、大腸癌、胃癌など悪性腫瘍

に対しても積極的に腹腔鏡下手術を行っております。特に胆石症は急性慢性胆嚢炎を含めて開腹移行率(途中で開腹手術に切りかえる率)が過去3年間で0%であり、術後合併症も少なく、すべての患者様に対して腹腔鏡下手術が完遂されております。

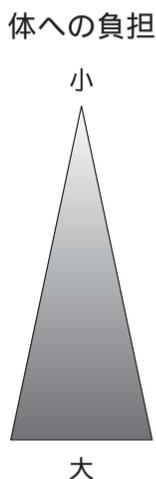
総胆管結石症は、内視鏡を用いてまず総胆管結石を除去した後、腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けていただき、早期退院していただいております。

肝臓の方の大半は肝機能障害を有しており手術が制限されることがありますが、当院ではおなかを開けることなく肝腫瘍を凝固壊死させて治療する腹腔鏡下ラジオ波凝固療法を取り入れており多くの患者様に喜ばれております。肝腫瘍の存在する部位によっては、腹腔鏡下肝切除術も施行することも可能です。一方、大腸癌は阪神間では早くから腹腔鏡下手術を取り入れてお

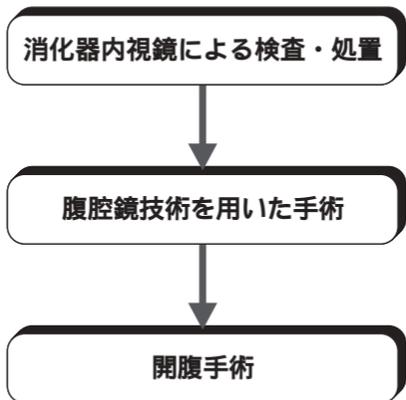
り、手術から退院まで早い方で1週間の入院で済んでおります。すでに現在まで大腸癌の約半数の患者様に腹腔鏡下大腸切除を施行しております。

泌尿器科領域

泌尿器科の病気で腹腔鏡手術の対象となる疾患は、腎腫瘍、副腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍などがあります。従来の方法である開腹手術では約20~30cmの大きな傷が残りますが、腹腔鏡手術



体への負担



消化器内視鏡とは、胃カメラや大腸ファイバーのことです。

低侵襲手術は、私たちにお任せください!

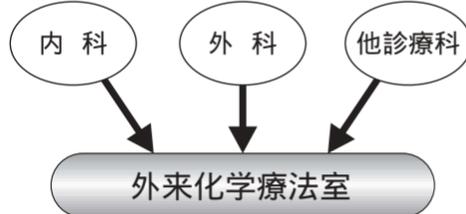


泌尿器科部長 瀧内 秀和
消化器センター部長 市原 隆夫
外科部長 新居延 高宏

外来化学療法室OPEN

外来化学療法とは、当院では、平成18年9月から、1階外科診察室西隣に「外来化学療法室」を新設いたしました。ガンの治療は、大きく分けて3種類あります。手術、「放射線療法」、そして「抗がん剤による化学療法」です。化学療法は、以前は抗がん剤の使用法や副作用の管理が難しいため、入院患者様が対象でした。ところが、近年、新しい抗がん剤の登場や副作用を抑える治療法(支持療法)が進んだため、外来で化学療法を行うことが増えてきました。

従来 各科の外来で化学療法



独立した設備、スタッフによる安全性を高めた外来化学療法

安全性を高め、療養環境が整備された外来化学療法室

外来での化学療法が増えている昨今、従来のように各診療科が個別に化学療法を行う方式では、安全管理に懸念が生じます。そこで化学療法は、一般診療から独立させ、外来化学療法室に集約しました。

従来との違い

独立化し、患者様のプライバシーに配慮
専任スタッフの配置で、患者様対応を充実
チームで患者様の治療内容を把握
使用する抗がん剤は、薬剤部で独立して調剤
リクライニングチェア導入で、療養環境を改善
化学療法を受けられる方の専用の治療室だから、他の外来患者様は入室されぬよう、プライバシーに配慮しています。当室では、専任看護師、薬剤師、医師などの医療スタッフがチームを組み、個々の患者様の治療内容とスケジュールを把握し、治療後のケアを行います。

安全性が重要な抗がん剤については、外来化学療法

私たちが担当します!



外科医長 林田 博人
薬剤部長 小西 清信



「より快適に、より安全に」をテーマに、9月にオープンした外来化学療法室